



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

3学期始業式、地震で長田中学校も避難所に・・・ ～自然の驚異の前で、私たちに何ができるのか・・・～

令和6年元旦、ちょうどサッカー日本代表の試合を自宅でテレビ観戦し、試合後の森保監督のインタビュー中に「緊急地震速報」のアラートが鳴り、その数秒後に大きな揺れがありました。間なしに2度目の「緊急地震速報」。2回目の揺れは、今までに経験したことがないような大きな揺れで、落下しかけたテレビは手で押さえたものの、テーブルの上のプリンターや棚の上に置いてあったものが次々と転落しました。台所の食器棚は倒れはしませんでした。扉が開いていくつかのお皿やコップが床に落ち、大きな音を立てて割れてしまいました。ほんの1、2分間の出来事でしたが、5分間にも10分間にも感じました。その後すぐに「大津波警報」が発令されたので、家族は近くの病院に避難しました。

地震発生時刻が16時10分、金石街道は、津波から逃れるために避難している車で渋滞していましたが、16時40分には長田中に到着しました。次々と地域の方が学校を訪れ、体育館に避難しました。みなさん落ち着いて行動され、ご自分でパイプ椅子を出して、設置したストーブで暖をとっていました。そうこうしているうちに、金沢市役所の方が来て防災倉庫を開け、中から毛布や暖房器具、段ボールの間仕切りなどを体育館に運び入れました。避難していた本校生徒が周囲の大人に声をかけて、運んだ毛布や間仕切りをテキパキと配っていました。率先して行動する生徒の姿に頼もしさを感じました。最終的に20人ほどの方が学校で一夜を明かし、翌朝2日の9時頃にはそれぞれ自宅に帰られました。帰られる際には、ご自分が使った椅子を片付けて、毛布をたたんで箱にしまっておきました。

生徒のみなさんも地震が起きたときは、ずいぶん驚き、不安な気持ちになったことだと思います。4日には、一斉メールで生徒のみなさんの安否を確認しました。メールの開封通知がないご家庭には、直接電話をさせていただきました。ご協力ありがとうございました。数名を除いて、みなさんの無事を確認することができましたが、中には里帰り等で、能登方面で被災した生徒もいました。教職員の中にも輪島や珠洲、穴水、七尾等で被災し、ご実家が全壊、半壊された方がいます。幸いにも本校の生徒や教職員、そのご家族の中で亡くなった方はいませんでしたが、自然の前に、多くの方がどこにもぶつけようのない怒りや先行きが見えない不安な気持ちを抱えています。生徒のみなさんや教職員の中にも過度なストレスを感じている人は、ぜひ先生やスクールカウンセラーに相談してください。この難局を一緒に乗り越えていきましょう。

始業式の後の全校集会で、松本先生からお話がありました。日本は昔から自然災害の多い国で、災害が起こるたびに、助け合い力強く生きてきました。日本人はその中で、他によりそう心を培ってきました。集団の秩序や調和、礼儀を重んじる「和」の精神は、世界に尊敬される日本人の感性です。今、私たちにできることは、人と人とのつながりを大切にし、温かい心で接すること、今できることを全力でやりきることでないでしょうか。生徒のみなさんは、校訓の1つである「和」の心をあらゆる場面で培ってきました。当たり前前の方が当たり前前ができることに感謝し、あいさつやありがとうを意識して行動することや周りの思いに気づいて思いやりのある行動をすること、一生懸命に学習に取り組むことなど当たり前前の方をやりきりましょう。この先、被災された方に思いを寄せていけば、私たちが直接関わり、役に立つ場面は必ず訪れます。

震災でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方のご健康と一日も早く心に安寧が訪れますことを願います。最後に、私事ですが初任校である能都中学校の教え子たちと同僚の先生方、お世話になった地域の方々のご無事を心から願います。